



国際シンポジウム

戦時朝鮮の 映画と 社会

2012年
7月14日(土)
午後 上映会

7月15日(日)
午前・午後 シンポジウム

京都大学人文科学研究所本館

参加無料



■上映会 7月14日 13:00~17:30 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1(裏面参照)

■シンポジウム 7月15日 10:30~17:30 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室

▶発表I (10:30~12:10)

朝鮮映画の戦時体制

チョンジョンファ

鄭琮樺 (韓国映像資料院韓国映画史研究所研究員)

民族の序列化と「転覆」の可能性—映画「望楼の決死隊」と植民地朝鮮—

水野直樹 (京都大学人文科学研究所教授)

▶発表II (13:40~15:20)

戦時期朝鮮における言語空間の再編と映画

イ・ファジン

李和眞 (京都大学外国人共同研究者、延世大学校講師)

朝鮮映画におけるCode-switching

ナヨン・エイミー・クオン (デューク大学助教授)

▶討論 (15:40~17:30)

ディック・ステゲウェルンス (オスロ大学准教授、日本近代史・日本映画論)

オ・ドクス

吳徳洙 (映画監督)

渡辺直紀 (武蔵大学教授、朝鮮・韓国文学史)

主催 | 全国共同利用・共同研究拠点「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」

共同研究班「日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相」(班長・水野直樹)

お問合せ | 京都大学人文科学研究所 総務掛 Tel. 075-753-6902 <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

国際シンポジウム

戦時期朝鮮の

映画と社会

日中戦争・アジア太平洋戦争期の朝鮮では、「皇民化」政策が展開され、志願兵、徴兵、労務動員など朝鮮人の戦争動員が図られた。

映画も戦時体制の下で、「皇民化」の道具となっていく。

日朝の合作映画が製作されるとともに、映画には二重言語状況も反映された。

戦時期の映画を通じて、「皇民化」政策下の朝鮮の社会状況、文化状況を読み解く。

上映映画の解説

7月14日 13:00~17:30

京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1

7月15日 12:15~13:30

京都大学人文科学研究所本館4階大会議室

「家なき天使」(1941年、75分)

製作:高麗映画協会、監督:崔寅奎、脚本:西亀元貞
出演:金一海、文藝峰、金信哉ほか

孤児院をつくる牧師とそこに収容された子どもたち。実話にもとづいてつくられた朝鮮映画で、日本「内地」でも文部省の推薦を受けたが、上映に当っては推薦が取り消され、フィルムも一部カットされた。

「朝鮮海峡」(1943年、75分)

製作:朝鮮映画製作株式会社、監督:朴基采
出演:南承民、文藝峰、金信哉、獨銀麒ほか

志願兵として出征した兄の戦死を聞いて実家に戻った弟。恋人との結婚を親に許されず、家を出るが、恋人の妊娠を知らないまま志願兵となる。

「半島の春」(1941年、85分)

製作:明寶映画社、監督:李炳逸、原作:金聖珉、脚色:李炳逸・咸慶鎬
出演:金一海、金素英、徐月影、白蘭ほか

朝鮮の映画界を描いた映画。古典「春香伝」の映画化を進めるプロデューサーが金策に苦しみ警察に逮捕されるが、同僚や新人女優の助けで映画製作をやり遂げる。統制会社である朝鮮映画製作株式会社の設立も描かれている。

「望楼の決死隊」(1943年、95分)

製作:東宝映画株式会社・高麗映画協会、監督:今井正、脚本:山形雄策・八木隆一郎
出演:高田稔、原節子、秦勲、金信哉ほか

朝鮮・「満洲」の国境を守る駐在所、それを中心とする村を舞台に、「匪賊」の襲撃に備える警察官や村人たち。一致協力に反発する者もいるが、日本人・朝鮮人・中国人が協力して「匪賊」を撃退する。東宝映画社と高麗映画協会との日朝合作映画として企画され、原節子、金信哉などのスターが出演した。



●市バス 17、203系統「農学部前」下車徒歩1分／31、201、206系統「百万遍」下車東へ徒歩5分
●京阪電車「出町柳」下車東へ徒歩15分 京都大学 北門入ってすぐ右
*駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。